

2025 年 10 月 27 日
城崎温泉 交通社会実験実行委員会
地元事務局：株式会社湯のまち城崎

安全で安心してそぞろ歩きができる【日本の温泉街】を目指して
官民連携で「交通社会実験」を 11 月 13 日から 16 日に実施
～城崎温泉街の車の交通量を半減させる実験です～

年間宿泊客数 90 万人・来訪者数 36 万人で、合計 126 万人(2024 年)が訪れる兵庫県豊岡市城崎温泉。
木造建築の立ち並ぶ温泉街を浴衣で 6 つの外湯をめぐる日本らしい情緒があり、近年は外国人旅行者にも人気のある関西有数の温泉宿泊地です。

このたびは、安全で安心してそぞろ歩きができる将来のまちづくりを、官民で協働しながら検討するための社会実験を行います。具体的には、秋の行楽シーズン中の 4 日間、臨時駐車場を温泉街の外・城崎大橋の東に設置し、温泉街に入る車の通行量を約 5,000 台/日から模擬的に半分程度へ減らした状態を作り出します。そして、温泉街中心部の一部道路区間(全長合計 840m)に歩行者天国化する時間帯を設け、観光客や宿泊客が温泉街をより楽しく歩ける状況にします。同時に、臨時駐車場を起点とした温泉街の無料循環バスを運行。車両を減らして歩行者が増加した状況での車両交通動向や道路空間の利用状況を調査してデータを収集。温泉街の外側に 2033 年頃の整備完成を目指して来年度着工予定の「(仮称)桃島バイパス」整備後の道路空間や道路交通ルール、空間づくり計画やまちづくりの仕組みなどを検討していきます。

温泉街では中心部の宿泊客のみならず、旅館や商店の関連車両、地元住民の車両も一部通行制限を行いつつ、荷捌き場や代替駐車場を設置。中心部の車両通行量の削減や車の横付け制限を行い、安全確保やそぞろ歩き中心のまちづくりのあり方をまちぐるみで協力しながら探っていきます。

地元まちづくり組織(城崎温泉観光協会・まちづくり会社 湯のまち城崎)が中心となり、豊岡市や兵庫県の協力を得て、これまで 2 年かけて勉強会や事前調査を行って準備してきました。このたび、国(国土交通省道路局)の支援も受けて実行委員会(実行委員長：出口敦/東京大学大学院教授)を組織し、官民協働で取り組みを行います。

当日は、歩行者天国化した道路空間で、情緒ある柳並木のある大谿川(おおたにがわ)に面したハイカウンターや、そぞろ歩き途中で寛ぐためのベンチ(畳什器)も設置。路上パフォーマンスやキッチンカー企画も準備中で、安心してそぞろ歩きしつつ、まち全体もより楽しく過ごせる実験を目指しています。

実施は令和 7 年(2025 年)11 月 13 日(木)午前 8 時から、同 11 月 16 日(日)午後 10 時まで。いつもよりも少しゆったり温泉街で、たっぷり時間を過ごしてもらえると幸いです。

○主催 地元事務局(取材対応・お問い合わせ)

株式会社湯のまち城崎(城崎温泉観光センター内) yunomachikinosaki@gmail.com 0796-32-3663

社会実験事業コーディネーター 古田 大泉(JISSEN.CO/湯のまち城崎取締役)

事務局担当:野竿(城崎温泉観光協会)・黒田(湯のまち城崎)

- 1 交通社会実験から目指す、将来の城崎温泉街(道路)のイメージ
- 2 交通社会実験の全体概要図

2. ビジョンの実現に向けた長期目標

2035 年度



年度		基本計画に関係する事業の実施	想定される変化・社会実験でできること
2025年	Phase1（～2025） ・ 円山川右岸ルートからのアクセスができることを想定/生かした実験	- 豊岡南IC開通 城崎大橋の開通 - 交通社会実験①実施(11月)	- 円山川右岸からのアクセスが容易になる - 社会実験で楽々浦に臨時駐車場を設置できる
2026年		- エリマネ団体設立 - 都市再生整備計画策定	- 整備計画策定提案や財源の受皿となる組織づくり - 継続的な社会実験を行うフレームを作る
2027年	Phase2（～2029） ・ エリマネを常時運用できる仕組みづくり	交通社会実験②実施	技術進歩や法令整備で、自動運転運用を想定した実験
2028年	・ 駅前の人流変化を想定した実験 ・ 自動運転を含む、環境型移動モビリティ活用を想定した実験	さとの湯の再開業(2029年春)	駅前広場整備や、人・車の流れが変化する可能性
2029年		- 城崎温泉駅前広場 再整備実施 - 城崎小・中（義務教育学校へ）の再編 - 交通社会実験③実施	一定期間、城崎小学校/中学校跡地を全面臨時駐車場として活用した実験を実施
2030年		- フリンジ駐車場の整備計画策定 - 温泉街内歩行者優先道路整備(北柳)	
2031年	Phase3（～2032） ・ 負荷や諸条件を変え実験を実施 ・ バイパス開通後に向けた道路や駐車場の環境整備 ・ バイパス開通後のシステム運用の準備期間として実験を実施	- 交通社会実験④実施 - フリンジ駐車場の整備完了・本開業 - クロス型バスの運行開始・カリスロ・グリーンズロ・サードリナ - 温泉街内歩行者優先道路整備(木屋町)	- フリンジ駐車場のオープン前に、運用テストを兼ねた実験 - 元業師エリア等に整備されたフリンジ駐車場を活用して、2033年以降のありたき姿に近い形でエリマネ運用できるようになる。
2032年		- 温泉街内歩行者優先道路整備(湯の里) - 市営駐車場(2箇所)の荷捌き場へ再整備	温泉街内を2033年以降のありたき姿に近い形でそぞろ歩きできるようにする
2033年	Phase4（2033～） 目指す到来像の実現へ	桃島バイパス開通	- 温泉街を通過せず、西側にアクセス可能になる - 温泉街の一元通行化による域内通行量の大幅削減

※2024年度には地方創生推進計画の改訂策定（企業版ふるさと納税導入）、2025年度には過疎地域持続的発展計画の延長策定が予想され、以降に城崎エリマネの財源とできる可能性がある 2

A street scene in a Japanese town, likely Karuizawa, showing a mix of traditional and modern architecture. A white delivery van and a black car are driving on the road, while a group of people, including children, walk on the sidewalk. The street is lined with traditional wooden buildings and modern street lamps.



○取り組みの詳細について(解説)

1 城崎温泉の観光まちづくり

兵庫県の北部・豊岡市にある、1300年の歴史を誇り、有馬・白浜と並び称される関西有数の温泉地。志賀直哉の小説『城の崎にて』でも有名。日本海に近く、カニなどの海の幸が楽しめ、大阪・京都から約3時間、特急1本で来れる距離にある。7つ(うち1つは一時閉館中)の外湯をはじめ、浴衣でまちをめぐれるため、女性を中心に幅広い年代層に人気。地区の中央を流れる大谿川(おおたにがわ)の兩岸には、枝垂れ柳と木造三階建ての旅館建築物が並ぶ。浴衣を着てそぞろ歩く風景は、「日本の温泉街=THE BEST ONSEN TOWN IN JAPAN」として、国内・海外の観光案内に数多く取り上げられている。

大正14年(1925年)の北但大震災の復興時に、外湯を中心とするまちづくりを行い、現在に至る街並みの基本が成立。まち全体を1つの旅館に見立て、「駅は玄関、道は廊下、宿はお部屋で、外湯がお風呂……」という「共存共栄」を旗印に、地元主導の観光まちづくりを行っている。近年は、城崎温泉観光協会による集客・PR事業、城崎温泉旅館協同組合による宿泊キャンペーン事業、まちづくり会社・湯のまち城崎による街並み活用・収益事業等が相乗効果を生んでいる。豊岡市とも連携しインバウンド客へのPRや「城崎国際アートセンター」との連携も進めている。

2 城崎温泉交通環境改善協議会の活動

温泉街では、年間5件程度の車と歩行者との接触事故が起こり、2012年の調査では9割近くの宿泊客(アンケート回答者)より「歩きにくい、危険を感じる」との意見があった。現在の城崎温泉街は、1925年(大正14年)に起こった北但大震災の復興都市計画から引き継がれてきており、当時に想定された車の交通量や車両形態の想定を大きく上回るものになっている。

2016年度より、桃島バイパス(県道約1,400m/トンネル部分約700m)の事業化決定を目指す「城崎温泉交通環境対策協議会(会長:西村総一郎/(株)西村屋代表取締役社長、事務局:豊岡市建設課)」を組織化。地元各種団体と豊岡市建設課が中心となり、兵庫県や警察や運輸事業者も参加。温泉街内の通行車削減を目的にしたバイパス事業化への気運の醸成により、2024年度に県道としての事業化が決定した。

また、2021年7月には「城崎温泉交通環境改善計画」を策定し、バイパスの整備において、温泉街内の部分的な一方通行化や温泉街近くに駐車場整備を行って、車両流入の抑制を行う方針とした。

加えて、城崎温泉街での搬出入時間を制限して交通マナーの順守を呼びかけた「そぞろ歩きルール」の策定を行うなど、地元主導の取り組みを行ってきた。

3 「北但大震災復興100年記念プロジェクト」と「エリアマネージメント構想」の提案

本年5月23日に北但大震災から100年の節目を迎える際、地元若手事業者が中心となり、将来の城崎温泉街のあり方とビジョンを提案する「北但大震災復興100年記念プロジェクト実行委員会(実行委員長:西村総一郎/同上、事務局:城崎温泉観光協会)」を立ち上げた。城崎を取り巻く主に4つの大きな課題(医療福祉、交通都市計画、教育、広報PR)について、専門家や研究者も加わって検討が行われた。

その中で、「交通・都市計画部会」では、東京大学大学院新領域創成科学研究科・出口敦研究室(空間計画)の協力を得て、行政及び地元市民・事業者参加の勉強会を7回開催。データや調査に基づき、ソフトな観光まちづくりの取り組みと、ハードな交通・都市計画の取り組みを一体的に行う「エリアマネージメント構想(骨子版)」を提案。2033年予定の桃島バイパスの完成時に5つの柱となる取り組み(①有料フリッジ駐車場整備運営、②温泉街中心部の車両東向き一方通行化、③温泉街中心部の歩行者を優先した道路整備、④温泉街中心部の車両通行制限時間設定、⑤温泉街から桃島エリア・バイパスを循環するグリーンスローモビリティや自動運転バスの導入運行)を官民連携で実現したい、との提案を行った。

これらの提案は、現在豊岡市と実施に向けた計画づくりを行うための検討・協議中。実施が決まれば、2033

年まで社会実験を繰り返しながら、持続可能でローカルな観光まちづくりの全国的なモデルとしても期待される取り組みとなる。

4 交通社会実験の詳細と特徴・オリジナリティについて

① 実験の考え方

「世界中の人をおもてなしできる日本らしい温泉街」の代表地を目指す城崎温泉街の将来ビジョンに基づき、桃島バイパスの完成目標年(2033 年)の道路交通体系や都市計画のあり方を検討する実践的かつ分析的な大規模社会実験。特に、将来ビジョンにおいて「温泉街の車両通行量を7-8割削減する」としていることから、調査と社会実験の中で模擬的にこれに近づけた状態(今回は、温泉街の車両断面交通量を半減した状態)を作りつつ、課題点を洗い出して解決するための計画・実施を目指す意欲的な取り組みとなる。

「社会実験」の名前の通り、温泉街の経済活動や生活はそのままに、まちぐるみでの取り組みになる。また実験の計画づくりから実施に至るまで、地元まちづくり団体と豊岡市建設課などとの官民連携で実施する。

②無料臨時駐車場の設置と市営駐車場の閉鎖

実験期間中、車両通行量を減らすため、温泉街から約2キロ離れた城崎大橋東側・円山川右岸に臨時駐車場を設置する。こちらに城崎温泉街中心部に立地する29軒の旅館に宿泊する客の車両と、3つの市営駐車場を利用する日帰り観光客の車両を無料で駐車するスペース(約300台)を臨時に設置。開設は8時から19時まで(その他の時間も入出場は可)。地元では駐車にて協力頂く観光客に雑炊の振る舞いや町内店舗で使える割引券の提供も行われる予定。

なお、温泉街への流入車両を模擬的に減らすため、市営木屋町駐車場・鴻の湯駐車場・駅前駐車場(合計100台程度)は営業を休止する。

③無料循環バスの運行

臨時駐車場から城崎温泉街を結ぶ循環バスを運行します。循環バスは10-15分間隔で運行。温泉街内に6つの乗降所を設けて、チェックインやチェックアウト、外湯利用時、地元住民の移動など、利用用途を問わず誰でも乗車できる。

④車両通行規制等の実施

温泉街の主要道路である県道豊岡竹野線(湯の里通り・約380m、南柳通り・約230m)、市道東山一の湯線(北柳通り・約230m)の全長約840mを時間帯に応じた車両通行規制を実施し、歩行者優先の道路空間として活用する。

※車両通行止め時間：北柳通り 10-22 時、湯の里通り 17-22 時、南柳通り 19-22 時

また、車両通行制限時間帯における木屋町通りを、片側交互通行とし、迂回路とする。

⑤歩行者優先の道路空間としての利活用実験

車両通行規制が行われている時間帯では、道路等を利用して仮設椅子やハイカウンターの設置(合計14箇所)を行い、多様な道路利用を検証・検討する。

⑥地元事業者・住民協力による荷捌き場の設定や移動の抑制

路上駐車による渋滞誘因を減らしつつ、今後の道路空間の整備や交通ルール変更の検討のため、湯の里通り・南柳通り、北柳通りでは搬出入のための横付け停車を制限し、民地や市有地を利用して別途設置された荷捌き場(合計6ヶ所)での停車を促進する。

旅館従業員や沿道住民の協力により、車の出し入れ・通行を制限するとともに、代替駐車場を設置して温泉街内部への車両流入を減らす一助とする。

車両通行規制道路に接続する宿泊エリアの一部を、観光客車両の任意進入制限ゾーンとする。

⑦研究機関の協力

当社会実験の計画立案や実施時調査・協力として、主に下記の学術研究機関等の協力得ている。

- ・ 東京大学大学院新領域創成科学研究科 空間計画研究室(出口敦教授・井桁由貴特任助教)
- ・ 中央大学理工学部都市環境学科 都市空間デザイン研究室(三浦詩乃准教授)

⑧実施体制

官民連携の実行委員会を、主に下記の組織を中心に構成し、実施運営を行う。

城崎温泉観光協会、城崎温泉旅館協同組合、株式会社湯のまち城崎、北但大震災復興 100 年記念プロジェクト実行委員会、城崎商工会、湯島財産区、城崎地区町内会長会、小中学校 PTA ほか

実施助成：国土交通省道路局「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験(社会実験)」

交通量等調査実施：兵庫県但馬県民局・豊岡市建設課

5 参考のリンクページ

豊岡市ホームページ(社会実験の実施)

<https://www.city.toyooka.lg.jp/kurashi/dorokotsu/doro/1034470.html>

城崎温泉街交通環境改善計画（豊岡市ホームページ内）

<https://www.city.toyooka.lg.jp/kurashi/dorokotsu/doro/1017825.html>

城崎温泉観光協会ホームページ

<https://kinosaki-spa.gr.jp/>